



オープンキャンパス

学生の顔が見えるオープンキャンパス

教授 高田 実
(入試委員長)

7月20日(土)、8月4日(日)、オープンキャンパスが開催され、645名の方々にご参加いただきました。全体説明会、学科ごとの説明会・模擬講義、国際交流企画・語学体験、小論文講座が主要な企画で、これに加えて入試・学生生活を中心とする相談ブースが設けられました。

昨年から企画を一新し、学生の顔がよく見えるイベントを盛り込みました。文化系・体育系両方のサークル活動紹介、学生報告、学生相談ブース、学内ツアーなど、学生たちと接する場をできるだけ多く作りました。模擬講義の中では、学生のゼミ活動や就職活動の成果を学生自身が語るコーナーも設けましたし、学生たちが開発した着ぐるみ「カرتون」と一緒に、高校生が写真に写る場面も見られました。

また、運営の中心を担ったのも学生たちでした。学生関係のイベントは、生協学生委員会が中心になって、自主的に運営してくれました。さらに、今年から学生広報委員会を立ち上げて、学生目線での広報活動を展開しました。今年の目玉は、ARを活用した動画広報でした。6枚の巨大なポスターを入口に配置し、独自のソフトを使ってスマートフォンから動画を見ることで、本学の特徴がよりよくわかるように工夫されていました。他大学に負けない、先進的な試みだといえます。

国際交流企画「世界とふれあおう」では、留学生が中心となって母国の言葉や文化を紹介し、これに連動して語学体験講座も実施されました。小さい大学ながら、旺盛な国際交流事業を展開している姿を示すことができました。

オープンキャンパスは、本学に興味をもつ高校生と直接ふれあう貴重な機会です。多彩な企画、フレンドリーで知的好奇心に富む学生、熱心で親切丁寧な教職員の姿に接することで、親しみやすい地域の知的センターとして活動している本学の姿を十分に理解してもらえたのではないのでしょうか。



オープンキャンパスに参加して

生協学生委員会委員長 国際商学科2年 佐野 友亮
(徳島県立阿波高等学校出身)

私は、生協学生委員会の学生委員長を務める傍ら、今年度新たに立ち上がった学生広報委員会にも所属しています。

生協学生委員会では、一年を通じて様々な活動を行っています。オープンキャンパスの時期が近づく「学生スタッフ」として大学に協力し、オープンキャンパスに参加するクラブやサークル、一般学生等と協働して学生主催の企画から運営までを行っています。学内の施設見学や教授とお話ツアー、保護者が抱えている受験や大学生活への不安を解消する説明会、大学生の生の声が聞ける「大学生と語ろう」等を行いました。

また、学生広報委員会では、今年度からオープンキャンパスに参加することとなりました。ここでは、ウェブの最新技術であるAR(拡張現実)を駆使し大学を紹介しました。AR専用のポスターにスマートフォンをかざすことでポスターの中の写真が動き出し、日々のキャンパスライフをリアルに紹介するという仕組みになっています。動画撮影の段階から活動し、学生による巨大文字作成の協力依頼や教授の方々の撮影日のアポ取り等、発足して1年目とは思えないほど充実した日々でした。

オープンキャンパス当日、幾つか確認不足もありましたが、生協学生委員会も学生広報委員会も想いは一つで「高校生のために」という気持ちが一丸となって、オープンキャンパスを大いに盛り上げ、成功に導くことができたと自負しております。学生スタッフとして二つの委員会を円滑に調整する厳しさもありましたが、一丸となったことで参加した意義は計り知れないものとなりました。そして何よりも、協力してくれた多くの学生には大変感謝しております。

このように下関市立大学は自分が目標を持って行動すれば、充実した学生生活を送れる機会がたくさんある大学です。そして、その目標を達成した時の感動は一生胸に刻まれ、さらに、成長した自分に出会えるチャンスが多方面にあります。

是非おいでませ下関市立大学へ！



就職活動

豊富な就職支援メニューを大いに活用しよう

教授 高橋 和幸

(キャリア委員長)

本学の昨年度就職決定率は、全国平均を上回る96.1%で、昨年度の実績も上回ることができました。2014年卒に対する、企業の採用予定数も好転しているといわれ、本年度の本学の決定率も、現時点では前年と肩を並べています。オリンピック・パラリンピックが7年後に東京で開催されることも決定し、このことが景気の回復基調への追い風となり、採用数がさらに拡大することを期待したいところです。

このような中、現4年生で活動中の人は、これまでの活動を振り返りつつ、広い視野をもって取り組んでいただきたいと思いますし、キャリアセンターへも遠慮なく足を運んでください。

また、現3年生もいよいよ就職活動が本格化します。就職ガイダンス、業界研究会、キャリア・スタディ等をはじめとして、豊富に用意されている就職支援メニューを大いに活用して、就職戦線を勝ち抜いていただきたいと思います。



市大キャリアスタディ



●日本銀行内定

経済学科4年 石川 将太

(愛媛県立三島高等学校出身)

私は経済活動を通して人々の生活を良くしたいという思いから金融業界や公的機関を中心に就職活動を行いました。なかでも経済活動の根幹である金融システムの安定に関わる仕事がしたいと思い日本銀行を志望しました。

就職活動では自分自身と向き合うことが求められるのではないかと思います。就職活動中に私は面接で非常に緊張し、次の選考に進むことができるのかどうか不安で一杯になったことが多々ありました。その時にいつも自分は一生懸命やってきたから大丈夫だと何度も自分に言い聞かせました。すると最善を尽くしたのであとは自分がその仕事に向いているかどうかを判断してもらうという心持ちに変わりました。私はゼミの活動を中心に一生懸命勉強してきました。その一生懸命やったという経験が私に自信を持たせてくれました。

いま振りかえるとそう思ったことがとても重要だったのではないかと考えています。

就職活動で大切なことはしっかりと準備することだと思います。準備することによって早い段階から危機感を持つことができます。危機感を持つことによって自分がなにをすべきか、自分にはなにが必要かを考える時間が増えていくと考えています。

最後に、私は就職活動を通してさまざまな人の考え方や意見を

聞き、自分の価値観を広げることができたと思います。皆さんも就職活動を通して成長できたと思えるような時間を過ごせるように頑張ってください。



●堺市役所内定

国際商学科4年 米谷 紫い菜

(大阪府立高石高等学校出身)

3年次のインターンシップから市役所に最終合格をいただくまでの1年間、就職活動に費やしました。

民間では、12月から5月に50社以上の企業を訪れました。精神的にも肉体的にも辛い時期でしたが、さまざまな人の考え方を聞き、気づきを吸収し、周囲の方々から支えられることで乗り越えることができました。

公務員の筆記対策では、民間の筆記試験の勉強や、講義での学びから役立つことがありました。面接対策では、キャリアセンターの方に相談したり、自己分析を入念にしたりしました。不安にならないほどに対策をすれば面接でも堂々と自分の考えを言えます。

大学生活では、何をやるかではなく、何を感じ、何を求めるかが大事だと思います。就職活動は縁ですから落ちてあまり気にせず、自分に自信を持ち続け乗り切ってください。



●九州旅客鉄道株式会社内定

国際商学科4年 藏本 崇行

(敬愛高等学校出身)

就職活動を始めるまでの私は、特に希望した業種などはなく、民間企業のどこかに就職しようという思いでした。また、自分のような人間が

就職することが本当にできるのかという不安も多々ありました。

実際に就職活動を始めてからは学内説明会や合同説明会に参加し、興味のある企業にエントリーをしましたが、筆記試験やエントリーシートの時点で落とされ、初めて面接にたどりついたのは2月でした。しかし、最終選考まで進めることができず、何社も落ちました。5月の時点では持ち駒が0の状態です。どうしようかと思いましたが、ここで諦めたら終わりだと思い、そこからまた就職活動を再開しました。

その際にはキャリアセンターや家族と友人に自分の履歴書やエントリーシートの内容を見てもらい、面接の練習をし、アドバイスをしてもらいました。諦めず頑張った甲斐があり、JR九州に内定を頂くことができました。とにかく就職活動は諦めずに興味のある企業を積極的に受けていくことが大事だと思います。



学内企業研究会

インターンシップ

実社会で様々な就業体験ができるインターンシップ

准教授 難波 利光

(キャリア副委員長)

本学キャリアセンターでは、学生のキャリア教育の一環としてインターンシップによる就業体験学習を行っています。インターンシップに参加した学生は、様々な事業体において貴重な就業体験を得ることができます。また、学生の職業意識を育成し、就業力向上に繋げることができます。

大学主催でインターンシップが行われるようになってから12年目になりますが、多くの学生がインターンシップに参加するようになりました。海外の事業体に学生を派遣する国際インターンシップも大学主催で行っており、中国（青島・大連）に対して7名、韓国（釜山）に対して2名、シンガポールに対して4名の学生を派遣することができました。また、学生が自主的に事業体を探して行う学外インターンシップも数多くの学生が参加しています。その中で7事業体7名の学生が単位認定を申請しました。全体として58事業体・80名の学生が、インターンシップに参加・単位申請を行っています。

インターンシップはキャリア教育の一環として行っており、派遣前には学内で事前学習を行います。インターンシップを行った後も、報告書の作成指導・報告会での発表など、様々な面から学生の就業体験をフォローする体制を整えています。また、キャリア教育科目として単位認定されます。



インターンシップ報告会

●トラスコ中山株式会社

国際商学科3年 中山 侑己

(岡山県立瀬戸高等学校出身)

私は今回、商社でインターンシップを行いました。その理由は、商社という業種に興味があり、将来の進路の一つとして考えているからです。しかし、商社とは何をするのか漠然としたイメージでしかなかったため、今回のインターンシップで具体的なイメージにしたいと思いました。

8日間のインターンシップを終えて、大変多くのことを学ぶことができ自分自身が成長できたと自負しています。研修では、ビジネスマナーをはじめとして、営業同行やプレゼンテーションなどの様々な経験をしました。営業同行では、実際に現場で行われている問題解決型営業をさせていただき、営業に対するやりがいや厳しさを痛感しました。また、プレゼンテーションでは、笑顔やボディランゲージを用いることや、質問形式にしてコミュニケーションを図ることで、興味を持って聞いていただけることを学びました。

私はこの経験を通じて、今後の大学生活や就職活動に生かしていこうと思いました。



●佳能大連弁公設備有限会社

国際商学科3年 秦 晴

(清水ヶ丘高等学校出身)

今回、私はキャノン株式会社（中国・大連）のインターンシップに参加させていただきました。大連でのインターンシップは大学として初めての試みで、私が最初の一人ということで多少不安もありましたが、光栄に思いました。

研修として、工場の生産ラインや作業員の寮など、施設の見学をしながら各部門の担当者から専門的な知識を学ぶことができました。質の高い作業の管理システムや、安全管理に触れることができ、とても有意義でした。

研修を体験する中で、働くということを改めて考えさせられました。これまでは自分自身のために働くという気持ちが大きかったのですが、社内の発表会に参加し、就業体験をしていくにつれて、自分の働きが組織に繋がり、そして社会へと繋がっているのだと感じました。

この5日間で、今まで関心を持っていなかった分野についても幅広く勉強することができて、本当によかったと思いました。今回学んだことを残りの学習生活に活かし、将来会社に貢献できる人間になりたいと感じました。



●シンガポール・ヤクルト株式会社 など

国際商学科3年 山並 千廣

(福岡県立戸畑高等学校出身)

私がシンガポールでのインターンシップに参加しようと思ったのは、ただ漠然と「海外で働いてみたい」と思っていたからです。国内のインターンシップであっても、社会で働く経験はできると思います。しかし海外で働くことは、実際に海外に出てみると分からないと思い、参加することにしました。

5日間で7社も訪問させていただき、各企業の事業内容や、シンガポールの概要説明などをさせていただきました。

ヤクルトシンガポールでは、実際に現地スタッフに同行させて頂き、ヤクルトレディのリクルート活動を行いました。私はもともと、同社の海外戦略に興味があったため、実際に現地スタッフに同行させて頂いたことは、とても貴重な経験になりました。

インターンシップを通して、「海外で働きたい」という気持ちは大きくなりました。それは、海外で働く方々の姿を自分の目で見て、実際にお話を伺えたからだと思います。今までの漠然としたイメージが具体的になり、自分にとって将来の最も大きな目標となりました。インターンシップに参加したことにより、明確な目標を見つけることができました。これからはこの目標に向かって、就職活動や勉強に励んでいきたいです。



外国研修

充実した1ヵ月

国際商学科1年 橋本 忠明
(近畿大学附属和歌山高等学校出身)

外国研修(英語)に参加し、イギリスに1ヵ月滞在しました。語学学校には日本人は多かったです。世界の様々なところから学生が集まっていて、授業は互いに自分の意見や考えを伝え、積極的に発言する形式でした。授業の合間にクラスメイトのイタリア人に日本の原発問題についてどう思うかと聞かれ、別の日にはイタリア人、ポルトガル人、アルジェリア人のクラスメイトたちが自国の人口の高齢化の現状について意見を交わしていました。外国人が自国や日本の社会に関心を持ち、自分の考えを明確に持っていることに驚いたと同時に、私自身が日本や世界で起きていることに対して関心や自分の意見が無かったことに改めて気付かされました。

1ヵ月の滞在は時間が経つのが早く感じましたが、多くの良い経験をする事ができました。この1ヵ月の経験をこれからの人生にどう活かすことができるか考えていきたいと思っています。



外国研修(中国語)を終えて

国際商学科2年 井上 桃佳
(福岡県立育徳館高等学校出身)

大学で中国に興味を持ち、初めて中国に行きました。中国でまず感じたのは、交通量が非常に多いことです。道を渡る際、横断歩道があってもなくても自動車は止まってくれません。自動車の切れ目を見計らって急いで渡らなくてはならないのです。そして、中国で日本との違いを最も大きく感じたのは食べ物でした。中国の食べ物は油っぽく、量も多いです。日本にはない独特の味付けがあり、なかなか慣れません。しかし、日本よりとても安く食事ができ、気に入った食べ物も見つけることができたのでよかったです。そして、青島大学の学生が、私たちが様々な場所に連れて行き、親切にしてくれたことが一番印象に残っています。おかげで、初めての中国も楽しく過ごせました。研修に行くことで、日本ではできない貴重な経験をする事ができました。



外国研修(朝鮮語)を終えて

公共マネジメント学科2年 小川 華乃子
(香川県立善通寺第一高等学校出身)

以前から韓国に興味があり、歴史ある延世大学で学べるということと、首都ソウルで生活を送れるということに魅力を感じ、この研修への参加を決めました。授業は少人数制で、レベルごとに分けられていたので、積極的に参加でき日々楽しく学べました。しかし、今回の研修ではチューターがおらず、韓国での生活が初めての私にとって、最初は不安なことばかりでした。そのため、個人的に交流会に参加し現地の友人をつくったり、困った時は、朝鮮語を活用し人に尋ねたりして、ソウルでの生活を楽めるよう自分なりに積極的に行動するよう心がけました。1週間もすると買い物や観光・イベントへ



行く機会も増えていき、充実した日々を送ることが出来ました。楽しい日々を送りながら、朝鮮語を学ぶことが出来たので研修に参加して良かったと改めて思います。

留学

青島でのかけがえのない貴重な思い出

国際商学科3年 山下 理恵
(長崎県立大村高等学校出身)

時間がすぎるのがとても早く感じられた一年でした。最初は中国語が上手ではなかったですが、外国の友達と中国語や簡単な英語でガールズトークするのが楽しく新鮮でした。授業では、自分の考え、自分の国の文化などについて中国語で発表しました。最初は恥ずかしさや照れがありましたが、次第に意見を言うことに抵抗がなくなりました。

留学中には北京や南京、蘇州、マカオ香港などを旅行しました。同じ国でも地域で文化や習慣、体や顔つきも全く違います。一つの国なのにまるで外国旅行に行ったような感覚でした。中国は実に面白いです。

旧正月は中国の友人の田舎で春節を祝いました。餃子を作り、中国の紅白歌合戦を見、親戚の家を訪問し、爆竹と花火で祝い賑やかで楽しかったです。

留学に来ている学生の向上心もすごく刺激になりました。みんな努力することを恥ずかしながら、学ぶために力を注ぐことを惜しみません。そんな彼らの姿を見て感動し、自分も負けずに頑張ろうと思いました。彼らに会えたことは貴重な体験でした。

私の留学は終わってしまいましたが、これから中国に行く後輩たちにも後悔のないように充実した留学生活を送って欲しいです。留学を迷っている学生は是非チャレンジしてください!



一年間の海外生活で得たもの

国際商学科3年 永野 愛
(長崎県立西陵高等学校出身)

帰国して数ヵ月たった今、アメリカで生活した一年間を思い出すと、あの留学生活は夢だったのではないかというような気持ちになります。私にとってこの留学は、忘れられない、特別なものになりました。

勉強面では、留学を開始したばかりの秋学期はESLのクラスを履修しました。内容は高校の英語レベルでしたが、他の留学生よりリスニング力が劣っていたので、最初の頃は苦勞しました。しかし、半年もたつとリスニング力、スピーキング力の上達が実感でき、春学期にはレベルを上げて一般の学生と同じクラスを履修しました。留学生ではなく、一般学生向けの授業なので、難易度は格段にあがり、課題の量や英語を読んだり書いたりする量も増えました。留学生である私は授業についていくのが大変でしたが、英語力の向上に繋がりました。

生活面では、積極的に友人と交流し、アメリカ国内の様々なところを旅行しました。帰国直前にした旅行では、留学初期のように英語が十分に話せないために発生していたトラブルもなく、英語力の上達を実感できたと同時に、自分自身の成長を感じることができました。この留学を通して、これからも失敗を気にせず、何事にも挑戦、経験して成長していこうという意志がさらに強くなりました。



「世界の厨房から」を開催して

●国際交流会ともだちサークル部長

国際商学科3年 森下 陽介
(京都府立山城高等学校出身)

毎年恒例となった国際交流会ともだちサークル主催のイベント「世界の厨房から」を7月5日(金)に開催し、今年も大変盛り上がりました。今年も昨年と同じ、中国・韓国・オーストラリア・トルコ・タイ・フィリピン・ベトナム・日本の8カ国でしたが、昨年とは違う料理を提供し、会場に足を運んで来てくださった皆様に「おいしい!」との声をいただくことができました。各国の留学生と国際交流会の学生で話し合い、試食会を重ねて作った料理を喜んでいただけたことは、私たちにとって、また留学生にとっても貴重な体験でした。

また、今年は投票制度を設けてご来場くださった方々のご意見を聞き、どこの国の料理が一番美味しいかを競いました。結果はタイの「グリーンカレー」が1位に輝き、「甘さと辛さのバランスが良くて食べやすい」などの感想をいただきました。フィナーレは留学生による日本舞踊で華やかに幕を閉じました。

今回「世界の厨房から」でその国の文化を最も表すもののひとつである「食」に触れ、日本との違いを新たに発見できる機会を提供できたと思います。今後も留学生とふれあい、異文化に触れるイベントを開催していきたいと思っておりますのでぜひご参加ください。



第44回下関市立大学E.S.S. 弁論大会

●E.S.S.弁論大会チーフ

国際商学科3年 勝間 薫
(浜松市立高等学校出身)

6月15日(土)、本学にてE.S.S.主催の第44回下関市立大学英語弁論大会を開催しました。今年も全国10大学から15名の学生が参加し、昨年にも増して大きな盛り上がりを見せました。

出場者は、事前に準備し発表を行う Prepared Speech と大会当日にランダムに与えられたテーマについてスピーチする Extemporaneous Speech を披露し、その総合得点で競い合います。

Prepared Speech では自分のスピーチ能力を、Extemporaneous Speech ではそれに加えて即興でスピーチを行う能力を発揮することが重要なポイントとなってきます。ジャンルが偏らない様々な内容のスピーチを聴くことは大変面白く、同時に英語学習の意欲も掻き立てられます。

本学からは、渡辺夏実さん、香川脩さんがそれぞれ出場し、素晴らしいスピーチを披露しました。渡辺さんは「University classes need to be changed」、香川さんは「Four steps to a meaningful life」というタイトルのスピーチをし、観客の方々にも楽しんでいただけたようで、本学E.S.S. 部員も心から喜んでいました。

発表者の皆さん、審査員の先生方、そしてご来場の皆様のご協力に感謝いたします。来年の第45回大会にも是非ご観覧にいらしてください。



第52回 下関市立大学馬関祭

●大学祭実行委員会委員長

国際商学科3年 杉尾 宏樹
(京都府立菟道高等学校出身)

今年も無事に大学祭を終えることができました。今年度の馬関祭は、目立ったトラブルもなく、3日間とも天候に恵まれました。今回は、「改革」を委員会でのテーマに例年とは違う企画をたくさん考え、新しいことに取り組んできました。また大学祭の「市大放題」というテーマにちなんで、大学生だけでなく、幅広い年代の方々に「したい放題」楽しんでもらおうと尽力しました。

新企画のおばけ屋敷やスタンプラリーも好評で、幅広い年代の方々が来場していただき、満足の声を聞くことができ、我々実行委員にとっても充実した大学祭となりました。しかし、反省点ややり残したことも多々あります。反省すべき点はしっかりと反省し、来年以降につながる形として引き継ぎをしていきたいと考えています。

最後になりますが、第52回馬関祭に協力してくださった皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。次代の馬関祭も何卒よろしくお願ひ致します。



学生FDサミットを終えて

●学生FD委員会

国際商学科2年 藤丸 康太
(佐賀県立伊万里高等学校出身)

私達、下関市立大学学生FD委員会は総勢9人で活動している大学公認の委員会です。主な活動として、自分たちの受けたい講義の企画・作成や他大学との交流、学生FDの広報活動等を行なっています。

今回、私達学生FD委員会は先日(8/24~25)京都府の立命館大学にて行われた、「学生FDサミット 2013 夏」に参加しました。参加した学生は現委員2年生1名、新たに加わった1年生2名と3年生2名、及び職員1名でした。今回のサミットは参加校約50校、400名以上の参加者で行われました。

1日目の午後の部に、私達も参加したポスターセッションがありました。私達は学生FD委員会で企画し、6月に開講した経済学の入門講義についての発表を行いました。新メンバーにとって、他大学の学生FD活動を学ぶ機会になったと思います。

2日目は午前部、午後の部に渡って行われた分科会に参加し、他大学のFD活動や、これから学生FDを自大学内に広めていくにあたってのコツなどを学んできました。

今回のサミット参加を今後のメンバー確保及び秋学期に開講予定の経済学入門講義に役立たせるための糧として、これからも活動を活発に行っていこうと思います。



2013年度下関未来大学

教授 土屋 敏夫 (地域共創センター長)

平成 25 年度の下関未来大学を開講しました。昨年度スタートし 2 年目を迎えた市民向けの講座で、「関門地域学」、「東アジア」、「食と健康」の 3 学科で構成されています。各学科 10 回の講義を通じて、市民の方に身近なことの知識・教養を高めてもらうことが目的です。6 月 2 日(日)の開校式では、「下関未来大学への期待～学びから実践への新たな展開」と題して、下関市長中尾友昭氏による講義が行われました。各学科では、本学教員の他、地域問題に詳しい外部講師を迎え、下関に関わる地域・産業・経済・国際・歴史・人間をテーマに講義しました。また、関門地域学科では、本学の難波利光准教授がコーディネーターとなって、「10 年後の下関を考える」と題し、受講生の方々がまちづくりについて語り合うワークショップを実施しました。関門地域学科の講義内容をもとに、受講生が協同して地域課題に対する理解を深め合うもので、会場では活発な意見交換が行われました。



2013下関ユースカレッジ

教授 木村 健二 (学部長)

今年で第2回目になる下関ユースカレッジが、市内の中・高校生約 20 名の参加を得、8 月 20 日から 3 日間、本学や長府・唐戸地区で開催された。第 1 日目はいわゆる座学であり、中尾友昭市長、吉津直樹学長のほか、市立博物館より田中洋一学芸員を招いて講義を行っていただいた。2 日目は市内見学で、まず長府港町の中国電力下関発電所へ行き、電力消費の節約や火力発電のメカニズムなどについて学んだ。その後市立長府博物館に行き、城下町長府の発展を示す絵図や坂本龍馬などの直筆の文書類を見学した。

午後は唐戸市場に移動し、2 階のレクチャールームで下関海洋科学アカデミー鯨類研究室の石川創室長の講義を受け、さらに海響館バックヤード見学を土井啓行課長の案内で行った。3 日目は下関市食生活改善推進協議会の家根内清美会長より、講義と体験学習を行い、最後に本学学生 7 名がサークルや学生生活、海外留学などに関する話題を提供して交流を行った。

下関市にある様々な文化遺産や生産現場、施設などにふれることによって、下関をより深く知り、若い人たちの視野を広げることによって、下関が一役買うという点で、たいへん有意義な催しであったと考える。



春学期卒業式

9 月 30 日(月)、本館Ⅱ棟 5 階大会議室において、平成 25 年度春学期卒業式・学位記授与式が挙行されました。今年度は、経済学科 12 名、国際商学科 10 名、大学院 1 名が本学を巣立っていきました。学長からは、「社会に出ると、多くは組織の一員として、組織の方針に従って動かなければならない。いろいろと衝突し、悩むこともあるでしょう。そのような時に思いやりの心をもって接することを貫き、これまで得てきた、また得ようとしている知識と教養を背景に誠実に努力すれば、必ず未来は開ける。」との言葉が送られました。本学としても、全国各地で活躍する皆さんを、下関から応援しています。



名誉教授称号授与式を挙行いたしました



この 3 月に本学を定年退職された平池久義前教授に、名誉教授の称号が与えられることとなり、7 月 18 日(木)の本年度第 4 回の教授会に先だて授与式が行われました。

平池先生は、平成 5 年 4 月に本学に着任以来、20 年間、学部においては経営管理論、経営組織論、国際経営論、大学院においては経営管理研究、経営組織研究、経営管理演習等の担当教員として教育に尽力されてきました。特に大学院においては、多くの大学院生の演習指導をされました。また、学内行政においても、学科主任、教務委員、高大連携委員等、各種委員として真摯にその職責を果たされ、本学の教育の発展に貢献されました。今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。

平成 25 年度防災訓練の実施について

9 月 24 日(火)に、下関北消防署員の指導を受けながら、防災訓練を実施しました。学生、教職員及び地域住民の約 150 名が参加し、消火、放水及び避難の各訓練を行いました。本学体育館は災害時の避難場所として下関市から指定されています。災害発生時には様々な場面で地域との関係が密になるため、地元大学町自治連合会と防災協定を締結し、今回も地元住民にも広く参加していただきました。

署員からは、「災害は火災だけでなく、大規模地震、台風や豪雨による土砂災害や河川の氾濫など、様々な側面を持っている。自分を守る『自助』、助け合う『共助』、救助隊による『公助』の 3 点を組み合わせ、減災に努めてもらいたい」との指導がありました。



公共マネジメント特講

教授 櫻木 晋一

この科目は公共マネジメント学科の2年次に配置されており、下関市役所と大学が協力して、地方自治の実情が理解できるように設けられた本学ならではの講座です。講義の内容は、下関市が抱えている具体的事例に即して、講師がさまざまな分野の概要や問題点を解説することによって、学生が公務員の仕事を理解し、グループ学習などを通じて問題解決策を考えていこうとするものです。コーディネーター以外は、下関市長と8人の下関市幹部職員によるリレー講義です。また、貸し切りバスを使用した公共施設見学などのエクスカージョンが4回組み込まれているのも特徴です。

今年度は、10月8日が市役所訪問。ここでは市長の講義と、入庁2年目の若手職員7名との本音トークがありました。10月22日はリサイクルセンターや奥山工場を見学し、環境部長の講義を受けました。11月5日は豊田総合支所長の案内で、道の駅と蛍ミュージアムを見学します。11月19日は観光交流部長の担当で、「火の山」近辺を巡り、この地区を観光地として再生させる方策について考えます。



公共マネジメントサークルと地域貢献

公共マネジメント学科3年 中村 良
(山口県立岩国高等学校出身)

公共マネジメントサークルは、公共マネジメント学科1～3年生の44人で構成され、地域貢献と自分達が普段学んでいることを実践してみるという目的の下、唐戸地区等で活動を行っています。

これまでの活動としては、サークル内に市内出身者がほとんどいないということから、一人ひとりが下関市について知る必要があると考え、唐戸周辺を歩いて回り、観光マップ作りを行ってきました。

現在は市役所観光政策課の協力の下、下関市の学生向け観光ガイドブック、チラシの作成を行っています。下関駅周辺、唐戸、長府、吉見、角島等を自分達の足で取材して、学生向けという視点で自らが興味を惹かれたポイントを取り上げ、独自のガイドブックやチラシの作成を行っています。現段階では、取材活動はほとんど完了したので、今後は編集作業に移り、完成品を周辺にある大学や公共施設に設置出来たらと考えています。ここまでの取材活動の中では、いかにして学生向けという独自色を出すのかという苦勞をしながらも、試行錯誤しながら活動する中で学ぶことも多くあり、充実した活動となっています。



専門演習 (ゼミ紹介)

国際商学科4年 菅野 夢大
(岡山県立勝山高等学校出身)

私の所属する川野祐二ゼミは、経営学を研究しています。

経営学には人の感情や行動に焦点を当てた理論であるモチベーション論があります。この理論では、人々の行動はその人の動機付けに起因すると考えられていますから、企業活動において人を動かす際に考慮すべきは人々の「やる気」です。私たちは春学期前半で、モチベーションを上げるためには、①どのような組織構造が最も合理的で、②どのような指示の出し方が正しいのかを研究しました。

権限(自由)を与えられて仕事をする人はモチベーションが高いことがわかっていたので、①の組織構造について多くの企業が現在行っている分権化による権限移譲は、効果的な経営方法であると容易に想像できました。②について私たちが独自に出した答えは登山に例えられます。それは「登るべき山(ゴール)は上司が決めるが、コース(達成方法)は部下に自由に決めさせよ」というものです。

私たちは春学期を通して、企業利益という側面からだけではなく、人の感情や行動、その他様々な側面から多角的に経営体を研究してきました。



ハラスメントの無いキャンパスをめざして

教授 道盛 誠一
(ハラスメント防止委員長)

キャンパスの構成員すべての方々がハラスメント回避について深い理解をもってくださることが肝心です。「しない・されない・見すぎさない」があたりまえになるよう、理解を深めていただく機会を毎年提供しています。

学生対象のアピールは、新入生ガイダンスで始まります。6月の講習会は、1年生を主対象として実施しました。都合2回の講習に参加した学生は318名でした(出席率7割)。文化会総会と体育会総会においてもアピールを行ない、合計850名にハラスメント相談制度の活用を呼びかけました。さらに機会をとらえて、くりかえしアピールしてまいります。

教職員対象の講習会は7月に2回開催し、97名の教職員の参加をえました(事務職員の3/4出席、教員の9割弱出席)。参加できなかった方々のために追加の講習会を設けて、教職員全員受講を実現します。

相談員の役割はきわめて重要です。8月には、相談員および防止委員向け特別講習会を開催しました。防止態勢の現状について評価・点検も行なっており、「予防」を重視した防止態勢の充実を目指し、さらに努力してまいります。



●客員教員紹介

青島大学から朴成日先生を客員研究員として招聘いたしました。
(平成25年10月1日～平成26年3月31日)

サークル成績				
サークル名	大会名	種目名	成績	選手名
軟式野球	西日本地区学生軟式野球春季1部リーグ戦	1部リーグ	3位 ベストナイン	外野手部門：末永 泰之
準硬式野球	中国地区大学準硬式野球春季大会		3位 ベストナイン	河野 義貴、三田 勇嗣
男子バレー	第77回中国大学バレーボールリーグ戦春季リーグ	2部リーグ	5位	
	山口県大学高専学生バレーボール戦	Bリーグ	3位	
男子バスケ	大学バスケットボール選手権春季優勝大会		7位	
	山口県学生バスケットボール春季大会	2部	1位	
女子バスケ	山口県学生バスケットボール春季大会	1部	6位	
ハンドボール	男子52回・女子40回中国学生ハンドボール選手権春季大会	3部	2位	
	第31回春季山口県学生ハンドボール選手権大会		5位	
陸上	第60回北九州・下関地区大学体育大会陸上競技	男子800m	1位	丸山 裕生
		男子走り幅跳び	3位	松本 隆之
		男子4×400mR	2位	伊津野・小野・城下・丸山
バドミントン	山口県春季バドミントン大会	男子団体	ベスト4	
		女子シングル	2位	廣中 有里
		女子ダブルス	2位	廣中 有里・堀部 さやか
卓球	第64回中国学生卓球選手権春季大会	男子団体2部	4位	
		女子団体3部	1位	
硬式テニス	第60回北九州・下関地区大学体育大会硬式テニス競技	男子団体	1位	
		女子団体	2位	
		男子シングル	1位	中溝 宏司
		男子シングル	2位	藤田 悠介
		男子ダブルス	ベスト4	永海 豪・下野 幸翔
		女子シングル	1位	瀬戸口 詩織
		女子シングル	ベスト4	森橋 愛叶
		女子ダブルス	1位	瀬戸口 詩織・森橋 愛叶
		女子ダブルス	ベスト4	明井 志織・熊野 智子
		少佛寺拳法	第42回山口県少佛寺拳法大会	準決勝一般女子初級組の部
		総試合一般男子初級組の部	2位	山口 朗史・工藤 昌也
空手道	第60回北九州・下関地区大学体育大会空手道競技	男子個人の部	2位	佐々木 由明
紫電流空手道	2013紫電流空手道競技大会	一般女子の部	3位	喜多村 美沙
弓道	第46回中国学生弓道競技会	女子個人	決勝・ナルハ出陣	山本 咲
	第60回北九州・下関地区大学体育大会弓道競技	男子団体	2位	
		女子個人	1位	岩見 莉沙

萩市須佐地域でのボランティア活動を振り返って

准教授 吉弘 憲介

今年は、近年見られないような大雨が各地で続き、山口県でも山口市阿東、萩市須佐で集中豪雨による河川の氾濫などで、多くの家々が被害に見舞われた。被害地区ではすぐさまボランティアセンターが立ち上がり、本学学生1名、吉津学長、吉弘の3名で8月5日に被災地の片づけボランティアに参加した。本学から2時間弱かけて被災地に入った。床下浸水した個人宅で床板を外し、床下の泥をさらう作業を行った。大人7名で作業をしたが家1軒片づけるのに1日がかりであった。被災地支援における人手の重要性を改めて認識した。本学でもボランティア作業など、日常的に地域の活動などに係るメンバーを登録し、いざというとき迅速に連絡を回せるような仕組みがあればより多くの人員で活動に関われるのではないかと感じた。今後の検討を期待したい。



行事記録 (平成25年7月～10月)

- 7月3日 関門地域共同研究会成果報告会
- 5日 世界の厨房から
- 6日 市民大学公開講座(7月13・27日)
- 18日 ハラスメント防止啓発講習会
- 20日 オープンキャンパス(第1回)
- 31日 大学院修士論文中間発表会
- 8月1日 春学期定期試験(～7日)
- 4日 オープンキャンパス(第2回)
- 20日 下関ユースカレッジ(～22日)
- 春学期卒業生卒論提出日
- 9月2日 大学コンソーシアム関門共同授業(～6日)
- 7日 保護者懇談会(～8日)
- 14日 大学院入試
- 24日 防災訓練
- 25日 秋学期授業開始
- 履修登録開始(～10月1日)
- 28日 ミニオープンキャンパス
- 30日 春学期卒業式
- 10月2日 アルコール講習会
- 5日 酒造りから学ぼう日本文化(第3回)
- 12日 大学祭(～14日)
- 19日 鯨資料室シンポジウム
- 24日 クリーンキャンパスデー
- 31日 FDワークショップ

今年度の入試スケジュール

- 【推薦入学・特別選抜】
- 出願期間:平成25年11月1日(金)～11月8日(金)
- 試験日:平成25年11月23日(土)
- 【外国人留学生】
- 出願期間:平成25年11月28日(木)～12月6日(金)
- 試験日:平成25年12月21日(土)
- 【一般選抜(前期日程)】
- 出願期間:平成26年1月27日(月)～2月5日(水)
- 試験日:平成26年2月25日(火)
- 【一般選抜(公立大学中期日程)】
- 出願期間:平成26年1月27日(月)～2月5日(水)
- 試験日:平成26年3月8日(土)

《お知らせ》

一般選抜(前期日程)において、福岡試験会場を新設しました。ついでに、前期日程では下関・広島・大阪・福岡、公立大学中期日程では下関・広島・大阪・福岡・鹿児島・高松で受験ができます。詳しくは、募集要項をご覧ください。

全国大会出場

少林寺拳法

2013 少林寺拳法世界大会 in Osaka, Japan

山口 朗史
工藤 昌也



水泳愛好会

第60回 全国国公立大学選手権水泳競技大会

黒岩 優太
植木 奈那子



第68回 国民体育大会

馬術成年女子

トップスコア競技 6位
猪俣 亜理沙

